

IGS 84 Sapporo について

支部長 木下 誠一

国際雪氷学会 (International Glaciological Society : IGS) と日本雪氷学会とが共催で、昭和59年9月3～7日、札幌で国際シンポジウムが開かれます。このことは既に先号で若狭五郎氏が紹介をされましたし、又、最近の“雪氷”才45巻才1号昭和58年3月号の44ページにも紹介されてあります。要項を下記に示します。

シンポジウムの名称 Symposium on Snow and Ice Processes at the Earth's Surface

会期 昭和59年9月3日(月)～7日(金)

会場 北海道厚生年金会館

シンポジウム構成 研究発表

展示(技術・測器)

見学(市内と北大低温研)

懇親会

- 主要テーマ
- 1) 雪氷面に於ける質量・熱交換
 - 2) 雪氷に関する物理的・化学的諸過程(雪の変態, 着雪, 着氷, ふぶき, 地盤凍結等)
 - 3) 大気中の雪の挙動(地ふぶき, はだけ, 流動化)
 - 4) 海水の動きとさの影響

参加予想人員 外国人 100人(アメリカ・カナダ・イギリス・ソ連・中国・ノルウェー・スウェーデン・スイス等13ヶ国)

日本人 50人

雪氷学会本部では、この国際シンポジウム運営のための組織委員会を作り、近く活動を開始する予定ではありますが、札幌で開かれる以上、当然北海道支部が実行の中心とならざるを得ません。日本の雪氷学、雪氷技術の中心は北海道です。更に世界の中心へと飛躍するのに非常によい機会の到来です。

研究発表や展示に積極的に応募することが期待されます。又、北海道支部では、シンポジウム開催のための実行幹事団を結成し、国際連絡調整、会場、見学会、懇親会、受付、宿泊輸送、展示、婦人プログラム、財務、募金連絡の各分担任をきめ、近く活動を開始する予定です。シンポジウムは、参加者の登録代で全部をまかはいきることが出来ず、一部を募金に頼らざるを得ません。支部会員にもこの募金活動に御協力をお願いする次第であります。IGS 84 Sapporoが雪氷学会支部会員により成功裡に実行されるよう心から期待します。